

## ◁第5回年会報告▷

## 第5回年会を終えて

実行委員長 佐藤 繁 (東北大学理学部)

第5回年会は5月7日(木)－9日(土)の3日間、青葉薫る仙台市の市民会館で開催されました。東京、大阪、名古屋といった大都市を離れて、現地に放射光施設を持たない地方の中核都市での初めての開催です。当初から予想される困難は、普段それぞれバラバラに放射光施設に出かけて実験研究を行っている東北大学内のユーザーが、いかにまとめて年會を運営出来るかということでした。

それを克服するために早い時期に実務型の実行委員会を形成して結束することを考えました。早速研究室の鈴木章二さんと概略の方針を検討し、さらに第4回委員長坂田さん、石井会長(当時)、学会事務局の西野さんから沢山のアドバイスを受けて年會の実行委員会とプログラム委員会を構成いたしました。要点は行事幹事の石川哲也さん(東大工)と相談して決めました。本年會の運営が比較的スムーズに進行いたしましたのは主としてこれら委員会のメンバーによるところが大きいので以下に氏名を掲載させていただき謝意を表します。所属は東北大学です。(敬称略)

## 実行委員会

副委員長 宮本信雄(電気通信研)、菅原真澄(原子核理学研究施設)

庶務 鈴木章二(理学部)、柳原美廣(科学計測研)

会場 河野省三(科学計測研)、近藤泰洋(工学部)

企業展示 庭野道夫(電気通信研)、山本正樹(科学計測研)

## プログラム委員会

委員長 宇田川康夫(科学計測研)

副委員長 高橋隆(理学部)

委員 大谷栄治(理学部)、小山田正幸(核理研)、桜井雅樹(金属材料研)、田路和幸(工学部)、新村信雄(核理研)、松原英一郎(素材工学研)、八木直人(医学部)の諸氏です。

両委員会ですら最初に行った仕事は開催会場の選定と年會プログラムの骨子の検討でした。会場は昨年4月末に決めました。プログラム委員会での検討の中心は中日の企画と特別講演です。企画Ⅰはそれぞれの分野で追求されている極限的研究をとり上げそれらを通して現在の放射光研究の動向を探ろうというものでした。面白そうな内容が10テーマ程に絞られ、講演時間等も考慮して最終的に6テーマに決めました。プログラム委員長の宇田川さんはセンスに溢れており企画Ⅰに「極限への挑戦」という大変気の利いたキャッチフレーズを命名しました。企画Ⅱについては、放射光科学も第2世代が酣なわで第3世代に移行しつつある現在、この分野の誕生から将来までを見通すことは有意義であると考え、斯界の先達 佐々木泰三、高良和武両先生、地元ということで東北大名誉教授鳥塚賀治先生に講演をお願いすることにしました。シンポジウム名もやはり宇田川さんの発案で「放射光；誕生、現在、未来」という三題漸的な洒落たものになりました。

特別講演については大分悩みました。地方都市での開催ということであまり最先端的すぎても馴

染みが薄くアピールしないし、かと言って放射光からあまり離れていても意味がないし、ということと放射光も包含するような一般的立場での講演を想定して数人の候補者を考えました。幸い岩崎俊一先生(東北工業大学学長)に御快諾いただきました。岩崎先生は垂直磁化を用いた高密度磁気記録と薄膜磁性体の研究で大変著名な方です。加えて「大型放射光施設整備連絡協議会」(SPring-8の初期の検討委員会)のメンバーでもありましたので学際的立場で「磁気と情報」を中心として科学の発展過程について大変興味深い講演をして下さいました。

年会の骨子は上記の内容に一般講演を加えたものになりましたが、もう1つこれからの発展が期待される地方都市での開催ということで年会としては初めての放射光科学講習会を開催することにいたしました。これは石井前会長の会員の拡大と基礎的知識の普及を図るという方針の一環として企画されたものです。講師として、石井武比古、富家雄、太田俊明、千川純一各先生にお願いし、テキストは式を少なくして初心者向けにさせていただきました。

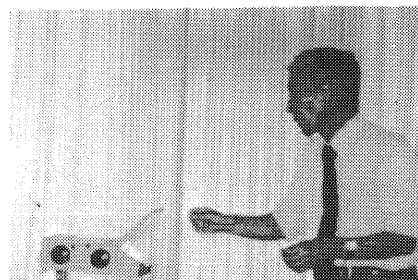
大分前から各方面に働きかけてきたのですが最初は受講申込みが少なく関係者の努力のお陰でどうにか間に合ったという面があります。講習会の目的、性格をもっと明確にしてより広くPRする必要があります。しかし受講者層は大学院生を中心に若い研究者や地元も企業の方々が多く、ささやかですが開催目的に貢献できたと思っています。

す。地味な試みですが学会の拡大のためにはこの種の企画を継続していった方が有効であると考えられます。

一般講演の申込みに関しては前年同様出足が鈍く心配しておりましたが、やはり最終的には前年同様口頭発表35件、ポスター発表90件の申込みに達しました。プログラム委員会には加速器からX線まで広い分野のメンバーが参加していましたのでこれらの講演の分類が容易になりその結果プログラム編成が比較的スムーズに進行しました。開催してみて気になったのは参加者の人数です。これについては、年度末に行われる多くの学会から少し離れた5月中旬ぐらいに開催すれば、もう少し増加するのではないかと思います。

仙台市民会館では、講演会場とポスターセッション及び企業展示会場が同一フロアにありその間の参加者の移動は容易で講演の選択が効率的だったような気がします。また企業展示会場の中央に休憩用のテーブルを配置し一服しながら展示を見られるようにしたところ、寛いだ雰囲気が出て好評だったようです。他方、沢山の手落ちや準備不足の部分がありました。これらについて忌憚のない御感想をお寄せいただければこれからの年会運営にとって非常に有益だと思います。終りに年会開催に御協力下さった多くの方々、参加者の皆様に再度感謝申し上げますとともに放射光学会がより広範囲の分野の研究者を包含して益々発展することを期待いたします。

## 放射光科学講習会



## 第5回年会

### 企業展示



### 懇親会

